

## 令和3年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

- ◆生徒の主体的な教育活動の実践を通して、次代をリードし地域社会を支える人材を育成し、地域に根ざし、地域とともに歩む学校
- ◆4つのチカラを引き出し、伸ばす学校
  - «育む四つ葉のクローバー（4つのチカラ）»
  - (1)【確かな学力】基本的な学習習慣を身につけ、主体的な学びを通して社会につながる学力を養い、希望の進路を実現する力
  - (2)【コミュニケーション力】豊かな人権感覚を持って違いを豊かさに捉える感性を育み、人とつながり、ともに高めあう仲間をつくる力
  - (3)【課題解決力】「答えのない問い」に真摯に向き合い、思考力・判断力・実践力を養い、未来を創造する力
  - (4)【地域貢献力】地域との連携や交流を通して、地域とつながり、地域の「人づくり・町づくり」に貢献する力

## 2 中期的目標

- ★ 全ての教育活動に「感染症対策」、「4つのチカラを引き出し、伸ばす」の観点を取り入れる。

## 1 確かな学力の育成

- (1)【授業力向上】新学習指導要領を踏まえ、「わかる授業、充実した授業」をめざし、不断の授業改善に取り組む。
  - ア 授業力向上に係る取組みを教務企画部に位置づける。教科間で協働し、公開授業及び研究協議、相互授業見学、授業アンケートを活用した授業改善を進める。
    - ※「授業アンケート」全評価軸平均 3.30 (H30:3.16、R1:3.19、R2:3.28)
  - イ 「主体的・対話的で深い学び」の授業、1人1台端末の導入にあわせた ICT 機器等を活用した授業を展開することにより、教員の授業力及び生徒の授業満足度の向上を図る。
    - ※学校教育自己診断（生徒）「授業はわかりやすい」満足度 R5:80% (H30:70.6、R1:73.6、R2:77.0)
    - ※学校教育自己診断（生徒）「ICT 機器が授業等で活用されている」満足度 85.0%以上を維持 (H30:82.0、R1:85.0、R2:87.8)
- (2)【進路実現の支援】教育産業を活用した基礎学力の定着を組織的に図り、生徒の希望する進路の幅を広げ、その実現を支援する。
  - ア 学力向上支援委員会が主導し、教科・学年の協働による教育産業の学習支援プログラムを有効に活用し、生徒個別の学習課題の克服と学習習慣の確立を図る。
    - ※学校教育自己診断（生徒）「家庭での学習時間を確保している」肯定率 R5:55% (H30:44.3、R1:45.6、R2:51.8)
  - イ 早朝及び放課後や長期休業中の補習・講習の充実に取り組み、校内で自習できるスペースの整備・拡充を進める。
    - ※学校教育自己診断（生徒）「補習・講習を十分行っている」肯定率 R5:80% (H30:76.4、R1:75.6、R2:76.3)
  - ウ 進路指導部と学年・教科が協働してクラス担任の進路指導力の向上に努め、生徒に寄り添い能力を引き出す指導を行い、希望の進路実現を図る。
    - ※学校教育自己診断（生徒）「進路指導満足度」R5:85% (H30:75.9、R1:79.8、R2:84.2)
- (3)【専門コース制の充実】2つのコース（文系・理系）及び2つの専門コース（人文探究・こども保育）における3年間を通じた学習プログラムを構築・遂行し、希望の進路実現を図る。
  - ※学校教育自己診断（生徒）「コースや授業は自分の将来に役に立つ」満足度 R5:80% (H30:71.8、R1:76.9、R2:77.1)
  - ※生徒の難関私立大学（関西8私大）及び国公立大学の現役合格者数 50人以上とする。(H30:9、R1:13、R2:85)
  - ※生徒の難関私立大学（関西12私大等）及び国公立大学の現役合格者数 130人以上とする。(H30:51、R1:113、R2:224)
  - ※令和3年度入学生の専門コース選択者について、子ども保育専門コース 20名、人文探究専門コース 40名をめやすとし、生徒のニーズに応じた進路指導を充実させる。

## 2 コミュニケーション力の育成

- (1)【生徒指導の充実】基本的生活習慣の改善・定着を図るとともに、マナーや規範意識を醸成するなど社会性の向上を図る。
  - ア 挨拶、身だしなみの改善・定着、SNS 使用上のモラル向上、遅刻指導の強化、安全通学の啓発を全教職員で取り組む。
    - ※学校教育自己診断（生徒）「基本的習慣の確立に力を入れている」肯定率 80.0%以上を維持 (H30:65.0、R1:70.0、R2:75.4)
    - ※年間遅刻者数、1,100以下を維持 (H30:1,901、R1:1,383、R2:1,031)
- (2)【ともに高めあう集団育成】特別活動や生徒会活動を通じて生徒の主体的な行動を促し、生徒の自主性や社会性を醸成する。
  - ア 部活動や各種行事を通じて周囲との協調性を養い、課題に向かって仲間とともに越える力を醸成する。
    - ※学校教育自己診断（生徒）「学校行事満足度」75.0%以上を維持 (H30:65.3、R1:74.6、R2:73.9)
- (3)【人権尊重の教育の充実】一人ひとりを大切に、だれもが安心して安全に学べる学校をつくる。
  - ア 心の教育を充実させ、生命と人権を尊重し、多様性を尊重し他者を思いやる豊かな人間性を育む。
    - ※学校教育自己診断（生徒）「学校の人権意識育成姿勢」肯定率 80%以上を維持 (H30:72.1、R1:78.4、R2:85.6)

## 3 課題解決力の育成

- (1)【主体的・対話的で深い学びの実践】授業や学校行事等において、生徒の主体的・対話的で深い学びの機会を持ち、思考力・判断力・表現力を育成する。
  - ア 「総合的な探究の時間」では、調べ学習に終わることなく自分の考えを発表する機会を積極的に設定する。また、3か年の実施計画を作成する。
  - イ グローバルな視点を養い、SDGs の達成のために「いつ・どこで・だれと・何を・どのように」行動すればよいか考え、自ら主張できる力を醸成する。
    - ※学校教育自己診断（生徒）「自分の考えをまとめて発表する」肯定率 50%以上を維持 (H30:45.5、R1:46.2、R2:54.4)
- (2)【部活動の充実】部活動を通して自己の課題を克服し、挑戦し続ける力を育成する。共通の目標に向かい努力し続けるチームをつくる力を醸成する。
  - ※学校教育自己診断（生徒）「部活動に積極的に取り組む」肯定率 60%以上を維持 (H30:52.2、R1:47.5、R2:61.4)

## 4 地域貢献力の育成

- (1) 教科・学年・分掌・部活動との協働による地域交流や社会資源を活用した教育活動を拡充する。
  - ア こども保育専門コース生徒によるこども園等への出前授業や交流。
  - イ 人文探究専門コース、一般系生徒による小・中学生への出前授業等の実施。
    - ※生徒による出前授業や地域交流の範囲を広げ、参加生徒が達成感を実感し、自己肯定感が高まるような活動内容の充実を図る。
- (2) 学校教育活動全体を通して組織的・計画的に学校保健活動を展開する中で、生徒の健康教育・防災教育の推進、主体的に清掃する意識と行動力を養う。
  - ※学校教育自己診断（生徒）「命を大切にすることを学ぶ」肯定率 85.0%以上を維持 (H30:77.9、R1:83.0、R2:85.4)
  - ※学校教育自己診断（生徒）「清掃が行き届いている」肯定率 R5:70% (H30:59.5、R1:58.4、R2:68.2)
- (3) 開かれた学校づくりの推進
  - ア 学校運営への一層の協力・理解を求めため、保護者に対する情報提供をきめ細かく行う。
    - ※学校教育自己診断（保護者）「教育情報の提供」満足度 R5:78% (H30:67.3、R1:72.8、R2:76.8)
    - ※学校教育自己診断（保護者）「本校 HP をよく見る」肯定率 R5:60% (H30:47.0、R1:47.2、R2:56.4)
  - イ 地域に信頼され、地域の誇りになる学校をめざし、生徒と地域との交流を積極的に進め、地域とのつながりを強める。
  - ウ 中高連絡会の充実など、生徒が通う地域の中学校との連携を深める。

## 5 学校経営・運営体制の強化

- (1) 普通科専門コース設置校としての学校経営を推進し、円滑な学校運営とその機動力を高めるため組織力を強化し「チームみどり清朋」をつくる。
  - ア 運営委員会の活性化を図り、担当する分掌・学年のリーダーとして相互に連携・協力して、様々な課題を解決する計画の立案に携わる。
  - イ 教員間の OJT を機能させ、経験年数の少ない教員、ミドルリーダーの育成を図る。
  - ウ 「働き方改革」の推進のため、1階大職員室の機能を生かし、職員間の迅速かつ正確な情報共有を図り、分掌・学年・教科相互の連携を強める。
- (2) 1人1台端末の導入・活用に向け、校内体制を整備する。
- (3) 教職員対象の本格的な実働防災訓練を昨年度に引き続き実施し、地域と協働する等、より内容を充実させ成果あるものにする。
- (4) 支援を必要とする生徒への支援体制を充実し、家庭や地域との連携を深め、全ての生徒に対し、安心して安全な高校生活が保障できるように努める。
  - ア SC 及び SSW を配置し、校内教育相談体制を充実させるとともに、外部公的機関との連携を深め、迅速かつ的確な支援を行い中退防止等に努める。
    - ※学校教育自己診断（保護者）「先生はさまざまな問題を見逃さずに対応」肯定率 R5:78% (H30:68.9、R1:69.0、R2:73.4)
  - イ 個別の支援計画の策定・実施を分掌・学年・教科の協働により組織的に遂行し、すべての生徒が安心安全に学ぶ環境づくりを進める。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p><b>【全般】表中の（ ）は前年度比</b></p> <p>・今年度もコロナ禍の中、府教育庁の方針のもと様々な制限がかかる状況ではあったが、生徒は現実を受けとめ理解した上で努力し、教職員は有効な方法を模索しながら連携・協力を図る姿勢と行動が認められた。保護者の方々にもそうした実情を一定理解していただけたと捉えている。こうしたことが要因となり、生徒及び保護者の肯定的回答率が概ね維持・上昇したものと考える。</p> <p><b>【学校満足度】</b></p> <p>○生徒「入学してよかった」：84.8%(-0.9)、「学校に行くのが楽しい」：79.5%(-0.5)</p> <p>○保護者「入学させてよかった」：91.9%(-1.9)、「楽しみにしている」：82.2%(-3.5)</p> <p>わずかに下降しているものの、概ね高い水準が得られている。</p> <p>○「特色ある教育活動」生徒：62.0%(-1.0)、保護者：61.5%(-4.3)</p> <p>○「コースや授業は役立つ」生徒：78.9%(+1.8)、保護者：84.7%(+1.0)</p> <p>「コースや授業は役立つ」は生徒・保護者共に4年連続して上昇しているが「特色ある教育活動」は生徒・保護者共に今年度は減少した。「普通科専門コース」を含む4つのコースの特長への理解、学力向上の実感や進路実現に結びついていることが上昇の要因と考えるが、「特色ある教育活動」については「コース制」以外の要因も探る必要がある。コロナ禍の中ではあるが、行事等、生徒の主体的活動の充実を図る必要性を感じる。</p> <p><b>【学習指導等】</b></p> <p>○「教え方に工夫、授業はわかりやすい」生徒：80.6%(+3.6)、保護者：91.1%(+1.9)</p> <p>○「ICT機器の活用」生徒：91.0%(+3.2)、教員：82.6%(-3.1)</p> <p>○教員「授業方法等の検討する機会を積極的に持っている」47.8%(+13.1)</p> <p>「年間の学習指導計画を教科でよく話し合っている」39.1%(-16.0)</p> <p>「授業はわかりやすい」については生徒・保護者共にここ5年間上昇し続けている。特に保護者の上昇がこの2年間で21.4%プラスと顕著である。生徒の「わかりやすい」という実感が保護者にダイレクトに伝わっているものと考えられる。</p> <p>○生徒「自分でまとめる・発表する」53.0%(-1.4)</p> <p>昨年度は8.2%上昇したものの、今年度はわずかながら減少した。制限がある中でも「マスク・換気・ディスタンス・短時間」の対策を講じ、発表活動の充実をめざしたい。</p> <p>○「家庭学習時間の確保」生徒：49.0%(-2.8)、保護者：48.0%(+3.4)</p> <p>○「補習・講習は十分」生徒：78.6%(+2.3)、保護者：68.9%(-1.2)</p> <p>コロナ禍の中での家庭学習、予習・復習、学習習慣の定着に向けた教員の粘り強い働きかけ、生徒の実践の現れであると捉える。また、日々の自習室等の利用、補習や講習、考査前・期間中の「自主勉強会」などの教員のサポートと生徒の努力の賜である。今後ともこうした良い習慣づくりを推進していくことが重要である。</p> <p>「学力向上支援委員会」を中心とする、「学びの基礎診断」の活用を図りながら学習習慣の定着及び学力向上を実現する具体的方策の実践を組織的に進めたい。</p> <p><b>【生徒指導等】</b></p> <p>○生徒「先生の指導は適切」79.8%(-0.1)、「基本的習慣の確立」76.1%(+0.7)</p> <p>○保護者「指導方針に理解」79.0%(-0.9)、「指導に協力」81.0%(+2.0)</p> <p>生徒は学校の指導を理解し、主体的に基本的習慣を確立させようと努めている。そうした生徒の努力、保護者の協力と教員の地道な指導の成果と認められる。</p> <p>今後、生徒会活動等、主体的な活動をより一層促進するなどの工夫を模索したい。</p> <p>&lt;相談対応&gt;○生徒「先生は意見をよく聞く」77.5%(+2.3)</p> <p>「担任以外に相談できる先生がいる」60.7%(-0.4)</p> <p>○保護者「相談に適切に応じる」83.1%(+0.4)、「生徒の相談に親身」78.6%(+5.2)</p> <p>日々のきめ細やかな相談対応の賜。引き続き相談体制充実に努めることが重要である。</p> <p>&lt;進路指導&gt;○生徒「進路実現に向けて適切な指導」86.0%(+1.8)</p> <p>「奨学金について十分に説明」89.5%(+3.6)</p> <p>「コースガイダンスは適切」84.6%(±0.0)</p> <p>○保護者「進路情報提供は適切」75.9%(-0.5)、「進路指導が適切」79.2%(+1.1)</p> <p>日々の担任と進路指導部の指導やサポート、「総合的な探究の時間」や進路HR、卒業生による講話等の成果である。一方、保護者への情報提供・周知の工夫は必要である。</p> <p>&lt;人権教育&gt;○生徒「クラスやクラブは話せる集団」80.8%(+0.8)</p> <p>「人権教育の推進」85.6%(±0.0)、「命の大切さや規範意識を学ぶ」85.2%(-0.2)</p> <p>教員による人権尊重の教育と生徒の理解を図りつつ、より適切な言葉かけにも努める。</p> <p>&lt;部活動&gt;○生徒「部活動に積極的に取り組んでいる」59.7(-1.7)</p> <p>昨年度は一昨年度に比べ13.9プラスと大幅に上昇したが、今年度はやや減少した。部活動加入率は54.6%(+3.4)と上昇しており、今後も、様々な大会や発表会への参加、地域交流や中高間の部活動交流等の充実を含め部活動のさらなる活性化を図りたい。</p> <p><b>【学校運営等】</b></p> <p>○教職員「組織的な講習」54.3%(-15.1)、「学校行事の工夫改善」71.7%(-7.9)</p> <p>「学年・分掌は組織的」45.7%(-15.5)、「組織間の連携」39.1%(+4.4)</p> <p>○生徒「特色ある教育活動」62.0%(-1.0)、「先生は協力して指導」70.2%(+2.3)</p> <p>○保護者「保護者の相談に適切」83.1%(+0.4)、「家庭への連絡・意思疎通」70.4%(+2.1)</p> <p>「教育情報の提供」74.6%(-2.2)</p> <p>「学年・分掌は組織的」は昨年度13.1%増加したものの大幅な減少となった。講習や学校行事を含め、組織体制の改善が急務である。校内人事を含む体制強化に加え、教職員による主体的で連携・協力を生かした持続可能な組織運営をめざして取り組みたい。</p> <p>○「ホームページ」生徒24.5%(-9.6)、保護者40.1%(-16.3)</p> <p>定期的な更新の停滞にも要因があると思われる。体制を含む改善・充実を図っていく。</p>	<p><b>【第1回】書面開催（当初6月18日（木）に実施予定）</b></p> <p>○学習指導の充実</p> <p>・「わかりやすい授業」や「ICT機器の活用」については一定の目標を達成している。今後は「自ら考える授業」「意見を発表する授業」に向けて努力を。</p> <p>・家庭学習の確保に向け教育産業の支援プログラムの一層の活用を。</p> <p>・図書を活用をもっと発信し、校内・校外を問わずビブリオバトルに参加するなど生徒の自主的な活動への一環にしてみても良いのではないかと。</p> <p>・保育をしている中での体験話やうれしいこと、楽しいこと、反対にしんどいこと等、現場の保育士の声を直接聞くことも役立つのではないかと。</p> <p>○進路指導</p> <p>・大学への進学実績については、専門コース選択においても確実な目標を掲げ、結果を残されたことに正直驚いている。</p> <p>○基本的な生活習慣の確立</p> <p>・時間を守ることは将来社会生活を営む上でも非常に重要なことである。校門等での指導やメロディチャイムの導入等の成果であり、進路実現にもつながっている。</p> <p>○行事・部活動等の充実</p> <p>・学校生活充実のために部活動がたいへん重要である。また、在校生に出身中学を訪問させるなど、生徒の生き生きした姿をアピールする活動を充実すべき。</p> <p>・「学校行事満足度」に対する具体的方策として、例えば、生徒指導部の行事づくりに関して、キャリアパスポートにふれることもあっても良いのではないかと。</p> <p><b>【第2回】10月5日（月）開催</b></p> <p>○学習指導の充実</p> <p>・今日、授業見学に行き、以前より教室の雰囲気はよくなっている。清掃がよく行き届いており、生徒たちの生活態度の改善につながっていると思う。</p> <p>・授業を見学して、雰囲気がびしっとしている、しっかりしていると感じた。今日、中学部で集会があり「雰囲気づくり」の話をしたところ。自分たちで意識を高く持って取り組んでいる高校生の雰囲気を見て、やはり小学部、中学部の生徒とはちがいがあると感じた。今日見た高校生の雰囲気を持ちかえって、小学生、中学生に伝えたい。</p> <p>・授業態度を見て、いい雰囲気ですべての面で以前よりよくなっていると感じた。コロナ禍の中、授業参観も難しかったので、今日授業を見ることができてよかった。</p> <p>・授業の内容や生徒たちの反応ぶりを見た感想として、5、6年前と比べ生徒たちの学力が上がっていると感じている。先生方の努力とそれに生徒たちもよく応えていると思う。</p> <p>○進路指導</p> <p>・進学実績というのは中学生や世間にとってわかりやすい判断基準になり、学校の評価にもつながるので、数にもこだわってほしいと思う。</p> <p>・親としていっぱい先生方と話したい。進路座談会では、お忙しいと思いますが、できるだけ多くの1・2年生の先生方に来ていただきたいと思います。</p> <p>○基本的な生活習慣の確立、行事・部活動等の充実</p> <p>・基本的な生活習慣にしても、行事にしてもすべての面で以前よりよくなっていると感じている。こうしたことも先生方の努力の賜であらうと思う。</p> <p><b>【第3回】令和4年2月14日（月）開催</b></p> <p>「学校教育自己診断」結果をもとに</p> <p>・授業アンケートの満足度や肯定感が上昇している。ここまで上昇したら維持することは難しくなると思われる。全員が100%満足するということはありませんので、この状態を可能な限り維持されることが重要である。</p> <p>・生徒の「奨学金」に関する肯定感が上昇しているのは、生徒への早期からの周知と丁寧な対応の結果であることがよくわかった。</p> <p>・「家庭学習時間」の確保に向けては、スマートフォンを扱う時間が多いことも影響するので、今後はスマートフォンを活用した取組みも必要であると考えている。</p>

## 府立みどり清朋高等学校

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R2 年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成	(1)授業力向上 ア 授業改善に組織的に取り組む イ ICT 機器を活用した授業づくり	(1) ア・研究授業、相互授業見学等の組織的な実践 ・「観点別評価」等に係る実践及び評価の検証・分析 ・実習・体験学習の推進（校外も含む） ・新学習指導要領に則ったカリキュラムの策定  イ・「考える授業」、発表の機会を増やす授業展開の実践 ・1人1台端末の導入にあわせた、ICTを活用した授業展開の開発・実践	(1) ア・生徒「入学満足度」85% [85.9] ・授業アンケート全評価軸平均 3.25 [3.28] ・生徒「授業はわかりやすい」78% [77.0%]  イ・生徒「ICT 機器の活用」満足度 85%以上 [87.8%]	(1) ア・授業の導入や発問の工夫、考え・発表させる機会を増やすなど、教員による努力に生徒が応えている。授業改善により一層組織的に取り組みたい。 ・観点別評価についてはシラバスに反映はできたが、更なるブラッシュアップが必要である。 「入学満足度」85.9⇒84.8% (○) 「わかりやすい」77.0⇒80.6% (◎) 授業アンケート全評価軸平均 3.28⇒3.33 (◎)  イ・「ICT 機器活用」87.8⇒91.0% (◎)
	(2)進路実現の支援 ア 学習習慣の確立に取り組む イ 組織的な補習講習体制の確立 ウ 進路指導力の向上と生徒の能力を引き出す指導の実践	(2) ア・授業の予習復習を習慣づける家庭学習の充実 ・教育産業を効果的に活用する学習支援体制の確立  イ・教科を主体とする校内講習体制確立及び内容の充実 ・早朝や放課後、長期休業中の講習等の充実  ウ・担任の進路指導力向上に資する情報交換会等の実施 ・適時な進路情報の提供、目標設定の支援 ・大学見学会、外部説明会への参加、卒業生による講話 同友会講演会等を活用した進路意識の向上 ・保護者向け進路説明会等のきめ細やかな情報の提供 ・各種検定試験受験者数、合格者数、有資格者数の状況	(2) ア・生徒「家庭学習時間の確保」肯定率 50%以上 [51.8%]  イ・生徒「補習講習は十分行っている」肯定率 76% [76.3%]  ウ・生徒「進路指導満足度」82%以上 [84.2%] ・保護者「進路情報提供満足度」78% [76.4%] ・各種検定試験受験者数、合格者数、有資格者数の状況	(2) ア・入学後から勉強法の指導の徹底や各教科からの課題などは有機的に行われていると思われるが、1人1台端末のさらなる活用、教育産業を活用した学習支援をより一層組織的に進める。 「家庭学習時間の確保」51.8⇒49.0% (△)  イ・放課後、休日等の講習・補習、自主勉強会等は充実した。 「補習講習は十分に行っている」76.3⇒78.6% (○)  ウ・相談、面接等の指導は充実した。 「進路指導満足度」84.2⇒86.0% (◎)  ・提供は充実したが、より周知が必要。 「進路情報提供満足度」76.4⇒75.9% (△)
	(3)専門コース制の充実	(3)・令和3年度入試結果を踏まえた分析結果の共有 ・分析結果を生かした専門コース、一般文系・理系生徒への学習計画の構築及び実践 ・子ども保育専門コースにおける教科間連携の充実、地域のこども園等との交流の拡充、さらなる充実	(3) ・生徒の希望に応じた進路指導を丁寧に行う。 ・関西8私大・国公立大の現役合格者数40人以上 [85] ・関西12私大等・国公立大の現役合格者数120人以上 [224] ・園児と交流する授業を推進する。	(3) ・生徒の希望する進路実現に向け、担任・学年団、各教科・進路指導部が連携・協力して細やかに丁寧に指導を行った。(○) ・「関西8私大等」現役合格者数39人(○) ・関西12私大等・国公立大の現役合格者数149人(○) ・保育園2園との交流で生徒の工夫が活かされ、大いに活躍した。(◎)
	2 コミュニケーション力の育成	(1)生徒指導の充実	(1)・全教職員による生徒指導課題の共有、共通理解 ・生徒の規範意識の向上にむけた組織的な実践 ・身だしなみや自転車マナーの講習会の開催 ・全教職員による授業規律、遅刻指導の徹底	(1) ・生徒「基本的習慣の確立」の維持 [75.4%]  ・遅刻者数 1,100 以下を維持 [1,031]
(2)ともに高め合う 集団育成		(2) ・グループワーク等を導入した表現力、発信力の育成 ・生徒会行事における生徒の主体的な活動の保障・拡充	(2) ・生徒「人権教育の充実」肯定率 80% [85.6%] ・生徒「クラス活動が活発」75%以上 [76.1%]  ・生徒会との懇談会の実施 (前後期各1回以上)	(2) ・「人権教育の充実」85.6⇒85.6% (◎) 「クラス活動が活発」76.1⇒73.5% (○) コロナ禍の中、様々な制約による影響による。成果は認めており、次年度も充実を図る。  ・懇談会は実施できなかったが生徒会内部での意見交換は充実。提案や学校説明会での司会・説明等で活躍。生徒会活動を一層充実させていく。(○)
(3)人権尊重の教育の充実		(3) ・一人ひとりの違いを認め合い、安心して学び高め合うクラスづくり、学級経営の実践  ・豊かな人権感覚を醸成する「総合的な探究の時間」のプログラム作成と実践、道徳教育の推進	(3) ・生徒「クラスやクラブは一人ひとりが尊重」75%以上 [79.6%]  ・関係委員会の組織運営による系統的プログラム作り	(3) ・教員は生徒と向き合い粘り強く指導に当たり、生徒もよく応え理解意識の向上につながっている。今後も学校をあげて人権尊重教育に取り組む。  「一人ひとりが尊重」79.6⇒80.8% (◎)  ・「総合的な探究の時間」は、制約がある中、テーマに応じた探究・発表活動に成果が見られた。一層充実させながら体系化を進めたい。(○)
3 課題解決力の育成	(1)主体的・対話的で深い学びの実践	(1)自分の考えをまとめて発表する学びの充実 ・論理的思考力・判断力・表現力の育成 ・SDGsに関する探究活動の企画・実践 ・読書活動を啓発する図書館を活用した教育の推進	(1) ・生徒「まとめて発表」55% [54.4%]  ・「総合的な探究の時間」で SDGs に関する研究発表会を計画的に実施する。	(1) 制約の中、可能な限り実践していた。 「まとめて発表」54.4⇒53.0% (○)  ・「総合的な探究の時間」でのテーマに含まれていた。読書活動も取り入れ、クラスや全体での研究発表会も実施した。 探究の深さ、発表は大いに評価できる。(◎)
	(2)部活動の充実	(2)・クラブ間交流の企画運営、外部指導者の活用 ・学校説明会等での中学生の部活動見学実施 ・中学校との部活動交流のさらなる充実 ・ホームページによる活動報告等の随時発信	(2)・部活動加入率 54% [51.2%] ・外部指導者を拡充し活動の充実を図る。 ・ホームページアクセス数を維持	(2) ・部活動加入率 51.2⇒54.6% (○) 年度当初の部活動制限の影響が大きかったが、全てのクラブが現実を受けとめ努力し、成果を発揮した。(○) ・茶道部、ダンス部、陸上競技部に加え女子バスケットボール部も指導者を迎え充実を図っている。(○) ・ホームページアクセス数は減少したが部活動の更新はほぼ維持できた。(△)

## 府立みどり清朋高等学校

4 地域貢献力の育成	<p>(1)地域と連携した教育活動の展開</p> <p>(2)防災意識の啓発</p> <p>(3)開かれた学校づくりの推進 ア タイムリーな保護者への情報提供</p> <p>イ 中学校等への広報活動</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の学校や福祉施設などの連携推進</li> <li>・小・中学校への出前授業、こども園等での生徒の実習体験、自治会事業への参加の推進</li> <li>・部活動での小・中学生との交流</li> <li>・学校周辺の美化活動の推進</li> </ul> <p>(2)</p> <p>実働防災訓練の経験を生かした防災避難訓練の企画・実践。防災教育の取り組みの実践</p> <p>(3)</p> <p>ア・ホームページの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者対象の授業見学会や講演会、個人面談の充実</li> <li>・学校行事における PTA との一層の連携</li> </ul> <p>イ・生徒が活躍する学校説明会を開催（年2回）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に根ざした中高連携の内容充実</li> <li>・出張模擬授業の実施、中学生への授業公開</li> </ul>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒「地域の人々など交流」肯定率 45%以上 [41.9%]</li> <li>・生徒「学校の美化」肯定率 65%以上 [68.2%]</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・池島学園の防災訓練への参加</li> <li>・感染症対策を講じた防災避難訓練の実施</li> <li>・生徒「命を大切にす心」肯定率維持 [85.4%]</li> </ul> <p>(3)</p> <p>ア・保護者「教育情報の提供」77% [76.8%]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校 HP の充実、アクセス数を維持</li> </ul> <p>イ・生徒の司会進行による学校説明会(年2回)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動での中学生交流会の実施(5部以上)</li> <li>・出張模擬授業、体験授業(招待)を年間計3回実施</li> </ul>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣の保育園2園、小学校2校との交流、部活動交流、地域美化活動は昨年度より充実した。「地域の人々など交流」41.9⇒33.5% (△)</li> <li>増加・充実の中、生徒への周知・意識づけは必要。</li> <li>「学校の美化環境」68.2⇒71.2% (◎)</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・池島学園の防災訓練には日程が合わず不参加となった。池島学園の学校協議会でも意見交換を行いながら可能な活動を今後も模索する。(－)</li> <li>「命を大切にす心の醸成」85.4⇒85.2% (○)</li> </ul> <p>(3)</p> <p>ア・授業や行事、部活動等での活躍を「校長だより」等でほぼ毎日発信した。</p> <p>アクセス数は減少 (TOP : 84,595 * 月平均 8,460、校長だより : 32,349 * 月平均 3,235) ※ 1月末</p> <p>「教育情報の提供」76.8⇒74.6% (△)</p> <p>「HPをよく見る」56.4% ⇒40.1%(△)</p> <p>PTA 活動と併せて周知と工夫を図る必要がある。</p> <p>イ・出張模擬授業等は感染症対策等により実施できなかった。(－)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校説明会では4回中3回(4回目は考査前で依頼せず)、生徒会執行部の生徒が司会・進行、説明を行い、各クラブ部員や有志の生徒たちが案内・誘導、説明等に参画した。(○)</li> <li>・部活動での交流は男女バスケットボール部、男女バレーボール部、男女硬式テニス部で実施した。(○)</li> </ul>
5 学校運営体制の強化	<p>(1)持続可能な学校組織運営の確立</p> <p>(2)新しい学校づくりを進める運営体制の強化</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全教職員が教育目標達成に向けて、協力し支え合い実践する組織づくり</li> <li>・経験の少ない教員への OJT 充実、ミドルリーダーの育成</li> <li>・分掌、学年、教科、事務室が有機的に結びつき、より機能的合理的に職務を遂行できる職員集団の形成</li> <li>・校務多重化の解消による「働き方改革」の推進、時間外超過勤務の削減</li> <li>・SSW 配置を継続し、教育相談支援体制を充実する。</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1人1台端末の導入・活用に向けた校内体制整備</li> <li>・ICT を活用した授業実践に向けた教員研修の実施、好事例の共有</li> </ul>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒「先生は互いに協力して指導」を65%以上 [67.9%]</li> <li>・教職員「授業方法等の検討機会」肯定率 35%以上 [34.7%]</li> <li>・教職員「組織間の連携」肯定率 40% [34.7%]</li> <li>・教員の時間外超過勤務時間の月平均値を前年度比 0.5 時間減、4～1月 [33.4 時間]</li> <li>・教職員「教育相談体制の整備」肯定率 60% [55.1%]</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内体制の整備を行う</li> <li>・教員研修の実施(2回以上)、職員会議等での共有</li> </ul>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「互いに協力・指導」67.9⇒70.2% (◎)</li> <li>・「授業方法等の検討機会」34.7⇒47.8% (◎)</li> <li>コロナ対応等、難しい局面はあるが、協力関係を結ぶ中で日々の授業改善に向けた検討にも相乗効果が生まれているものとする。更なる向上をめざす。</li> <li>・「組織間の連携」は向上した。34.7⇒39.1% (△)</li> <li>この2年間で連続して増加し、17.6%上昇したものの40%には及ばなかった。次年度こそ実現させたい。</li> <li>・時間外超過勤務時間月平均 29.2 時間 (32.9) 3.7 時間減 (◎) ※ 1月末時点</li> <li>校内人事及び組織体制の更なる機能充実を図る。</li> <li>・SC,SSW,相談室,保健室,委員会の更なる連携を図る。「教育相談体制整備」55.1⇒76.1% (◎)</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン授業及び端末の導入・活用に向け研修を4回実施。授業活用の研究をさらに進める。(◎)</li> </ul>